

ザンの伝説

ザン。伝説として琉球各地に伝わる。ときどき人間そっくりの頭を鰐魚が海上に浮かび上がり、船上の人に頭を見せてから次々と、これが現れると必ず海が大荒れになるので、船は急いで帰港したという。又、時折数匹のザンが浅瀬に上がってくるが、漁師達がこれを捕らえて食って帰ると、その家の主婦が死ぬか、家族の誰かが海で炎難に遭うため、捕らえて食べる際には毛決して持って帰ってはならず、浜で料理をして食べなければならぬという。

欠片をサガシテ・・・クダサイ・・・

※注意
この謎解きは万座・瀬良垣で潜水する方であればじなたでも結構です。
見つけたらバズクドロップ沖縄まで一報下さいませ。欠片の照台を行います。



発見や手掛かり、そして新たな口伝文が分かる次第HP並びにFacebookに掲載致します。
backdrop-okinawa.com/



葛飾北斎画『神説四張月』より「人魚図」
人魚の下に描かれている生物が、沖縄のゾゴンと解釈されている

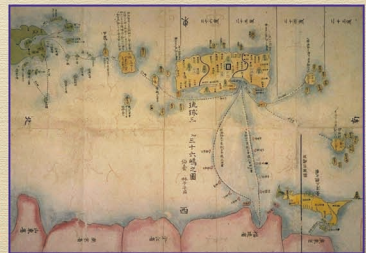
ザン伝説 口承瀬良垣某
大昔の事。奄美大島近海にそれは大きく立派なザンが生まれた。そのザンには力もあり正しきザンであった。海が荒れるのを感じると水面にまでその大きな頭を出し、船に予兆を知らしめた。

ある時、遙か南方で大きな戦あり。多くのザンが倒れ、くを聞いたそのザンは、加勢すく南の地に向かう。戦は現在の浦添沖辺りで始まり、いよいよもってその戦火も更に北方へ飛ぶ勢であった。そのザンも孤軍奮闘し、辺りその力を知らしめるのであった。しかし敵多数によりじわりじわりと劣勢となり、あまつさへ体に深手を負ってしまう。

からがら逃げる事と相成ったそのザンであったが、万座毛の辺り迄来た折には虫の息であった。しかし何とか故郷までと、一心に念し、必死に泳ぐそのザンは瀬良垣の島周りに、その命を散らすのであった。

海の底と沈むそのザンの体は蟹や海老、貝などに喰われ、跡形もなくなってしまう。しかし、哀れに思った海の神様が、そのザンの魂を海の水を限りなくすくい集める事ができる腕に変えた。そしてそれを瀬良垣の海の守りとして人に与えた。しかし大風と時化の折に海飛はされ、散り散りになってしまった。

この欠片全てを見つけた一つの腕に戻すと一つ一つの欠片から幸せが紡がれるという伝承がある。



林子平 琉球二省並三十六島図

ザンの宝を捜せ

恩納村瀬良垣の海に眠ると伝わるザンの宝を捜せ。

腕は五の欠片に割れ分かれ、決まる月に一欠片ずつ水中に現れる。

それは三月、五月の月、八月、十月の月、そして十一月の月。昔の話なのでこれらの数字も謎である。

又、最初の欠片が示された口伝は現存するので左に示す。何らかの手掛かりになればよみのであるが・・・

ザン苦しみ最初休せし處

八尋もありし水面より

本野子若右

周乃鱸の影一つ

真深くにそのザン名残有

二度目の休を知らず

口伝瀬良垣